

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891300091
法人名	株式会社 廣島屋
事業所名	グループホーム 愛
所在地	四国中央市土居町上野乙156-2
自己評価作成日	平成29年2月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成29年2月13日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「笑顔・思いやり・尊敬・信頼」という理念を大切にして入居者の方々とスタッフとの間が穏やかな時間が流れ、入居者の方の笑顔が増え、人生最後の場所であるここに居て良かったと思われるような生活が送れるように、支援に努めております。訪問看護ステーションや医療機関、歯科(定期健診)との連携が密にとれており、入居者が案じた生活が起きております。看取りの取り組み確立しスタッフが入居者と最後まで過ごすと言う意識が強くなっております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所の特長として「臨機応変に対応できる」ことを挙げており、利用者個々の状態に合わせた対応に努めている。利用者によって、編み物や塗り絵、貼り絵等を行う機会を作ったり、更衣時には「これとこれどっちにする？」等、選ぶ場面を作っている。車いすの背もたれ等に、ヘアブラシ等を入れておき、気が付いた時に髪を梳かせるよう支援している。  
 重度の方は、気候や天候を見て庭に出て過ごす時間を作っている。野菜の世話ができるように、庭に菜園スペースを作ったり、プランターで育てたりしており、外に出るきっかけにもなっている。隣接する法人サービス付高齢者住宅の行事に参加したり、時には外でおやつを楽しんだりしている。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

グループホーム 愛

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

片桐 美保

評価完了日

平成29年 2月 1日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>(自己評価) 笑顔、思いやり、尊敬、信頼と言う事業所の信念のもと、住み慣れた地域で誰にでも訪れる老いを助け合って生き、スタッフ全員で入居者を支え地域の中でその人らしい生活をしていただけるようにケアの向上に日々努めている。</p> <p>(外部評価) 理念を玄関に掲示している。この一年は、理念について話し合うような機会はなかったようだが、今後、法人代表者は、職員に理念を語りながら牽引していきたいと話していた。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>(自己評価) 近隣の保育園にホームの敷地を開放している。近くのお店に入居者と買い物に出かけたり、観月祭を開催して地域との交流を図っている。ボランティアの訪問、また推進会議の委員を通して地域との交流を図っている。</p> <p>(外部評価) 花見は、公民館にある桜の木の下で楽しめるよう、場所提供をしてもらっている。利用者が敬老会に参加できるよう、送迎等して支援している。地域清掃には職員が参加している。回覧板で観月祭の案内を回してもらった。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>(自己評価) 大家族で過ごす一軒の家として普通に生活して、近隣の人も普通に付きあっているように努めていますが今後は地域貢献が出来る取り組みをスタッフも意識してスキルアップに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2か月に1回の運営推進会議では日頃の活動計画及び活動報告や評価、行事の結果報告をしており、参加して下さった委員の方々から事業推進における貴重な意見やお話を伺う事が出来ている。</p> <p>(外部評価) 会議には、家族、自治会長、市議会議員、民生委員の参加がある。事業所から活動状況等を報告して参加者からの質問等に応答している。又、看取りやインフルエンザについて等の勉強会も行っている。</p>	<p>今後は、会議メンバーの顔ぶれを替えて、新しい人との関係を作っていきたいと考えている。会議を通じて地域との関係を作り、活動を地域に拡げていってほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市担当者との連携を密にとり、よりよいケアサービスに繋がるようにしている。地域包括支援センターの方にも、推進会議の委員として会議に参加して頂きいつでも意見を言って頂ける関係を作っている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に市の担当者の参加があり、事業所からの報告を聞いてくれている。年4回市内グループホームが集い、情報交換する機会がある。又、それぞれが持ち回りで議題等を担当し、講師等に手配も行い、勉強する機会を作っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) スタッフ全員が身体拘束について理解しており、定期的研修を行って理解を深めている。玄関は施錠せず、自由に入りが出来るようにしている。</p> <p>(外部評価) 玄関は施錠せず、出入り時にはブザー音がして、居間にも聞こえるようになっていた。手に傷ができたため、手袋を付けて過ごしている利用者がいる。「帰りたい」と出かけるような利用者には職員が付き添っている。防犯のために、新たに居間や事務所に監視カメラを設置していた。必要時のみ再生して確認することになっている。時に、職員が利用者「座っておいて」等と言葉がけするような場面がみられたが、さらに、利用者の立場に立って点検するような機会も設けてみてほしい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  虐待は絶対にあってはならない事と捉えており、スタッフ全員が理解し、定期的に研修を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  後見人制度は1人の方が利用されておられますが、制度の理解の為にカンファレンス時に研修を重ねております。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  十分時間を掛け、出来るだけ丁寧に説明を行い、理解納得が得られるように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  運営推進会議への参加や、普段でも入居者家族の意見要望を聞くように努めている。また毎月の請求書と併せて写真・手紙を添えたり、来訪時を利用して生活状況を家族の方へ伝えるように努めている。  (外部評価)  毎月、個別に利用者の様子を手紙で送付し、気付いたことを言ってもらえるよう依頼している。又、家族が来訪した際の帰り際には、法人代表者が「何か気付いたことはないですか」と声をかけて聞き取ることに努めている。観月祭参加の家族は2～3名、運営推進会議は1名と、現在、家族が利用者や事業所にかかわる機会が少なくなっている。	家族は、利用者の暮らしを支える上でのケアパートナーでもある。家族の理解や協力を得られるように、今後さらに、事業所での活動に参加できるような場面や機会作りに工夫を重ねていってほしい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者はスタッフからの意見を出しやすいように議題提起し、月1回のカンファ等色々な機会自由に意見交換が出来るようにしている。また日々の中で出た案や思いを代表者に伝え、働く意欲やサービスの質の向上につなげている。 (外部評価) 毎月のカンファレンスには、半数程度の職員が参加している。欠席した職員は、議事録を確認して詳細は管理者等に直接聞くことになっている。外部研修は自主参加となっている。又、内部研修の機会も少ない。	今後はカンファレンスと併せて勉強会等を行っていくことを予定している。職員がスキルアップするような仕組みを作って、事業所のサービスの質の向上を目指して行ってほしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) スタッフの勤務状況を把握し出来る限る反映していると思われる。またより良い職場環境になるように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 本人に合った研修、希望する研修の参加を勧め、其々のスキルアップをはかるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会や色々交流できる機会を利用して積極的に交流を進めて行きたいと考えている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接や関係機関への問い合わせ等を行い、ご本人の意向や要望を聞き、ケアに反映出来るように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居者の自宅に訪問させて頂き、家族との話し合いをする場を設けている。特に施設に対する要望をよく聞き、良い関係が作れるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人・ご家族の話を傾聴し、精神面・身体機能等を合わせて、その方の生活環境も考慮して最良と思われるサービスが提供出来るように提案している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 全介助を希望される入居者の方もおられますが、「してあげる」的感觉を持たず自立支援を基本におき、最後の人生を共に過ごすと言う感覚で支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族との連携を常に摂り面会時等では入居者の生活状況をお伝えし、家族の方と思いを共有出来るように情報交換をして関係作りに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人やご家族との会話を通してご本人が大切にしたい馴染みの人・物・場所をしっかりと理解するように努めている。居室にもなるべく馴染みの物を持ち込んで頂くようお願いしており、面会時間も制限せず、いつでもご家族や馴染みの方が気軽にお越し頂けるようにしている。 (外部評価) 家族から、利用者は以前、野菜作りが好きだったことを聞き、菜園等を作っていた。「帰りたい」と言う利用者には、職員と一緒に歩いて自宅を見に行けるよう支援している。事業所の近くにお墓があり、外に出た時に手を合わせるような場面がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆さん其々の個性を生かし、スタッフが中間的な役割をして、利用者同士が関わりあえるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設へ変られた方の情報提供を積極的に行っている。必要に応じて面会にも出かけている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の寄り添い、関わりの中で入居者の話し・しぐさ・表情等から思いをくみ取り、利用者の要望に応じて生活が出来るように努めている。 (外部評価) 言葉で思いや意向を表す利用者は少ない現状であるが、職員は、利用者とのかかわりの中で目線、表情、笑顔等で本人の思いや意向の把握に取り組んでいる。以前関わりのあったケアマネジャーや家族からも情報を得ている。	本人が主体の支援を実践していくためにも、得た情報を整理するような取り組みが期待される。その情報をもとに、本人が何を求め必要としているかを本人の視点で検討できるように、取り組みをすすめてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時ご家族にアセスメントシートに記入して頂いたり、担当の支援事業所に情報を提供して頂き入居後はご本人からも話を聞く等これまでの暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日常生活の記録、申し送りノートを活かし、その方のリズムを知り、一人一人の過ごし方や心身状態等色々な面を把握するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング                      本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族や医療機関からの情報等アセスメントに基づき入居者が抱えている課題を介護計画に挙げている。計画の実施状況は日々の記録の中で見ている。計画目標達成時に全職員でモニタリングして、カンファレンスの時にまとめ、次の介護計画に生かしている。またご家族からのご意見は常にお聞きするようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者の意欲向上に取り組むケアプラン作成に努めている。プランは、日々の記録に綴じて共有できるようにしており、モニタリングは毎月数値化している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映                      日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>申し送りノートを作成し、入居者に今起きている問題、解決策を記入し、スタッフ間で情報の共有を行っている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化                      本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居者やご家族の意向を聞きながら通院や外出の支援を行っている。急な生活変化に対しても専門機関の指示を得て支援を行っている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働                      一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>近隣の保育所や近所、地域の方々の理解を求め、入居者の方々が生きいきと笑顔で暮らせるように考えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 入居者・ご家族の希望を第一に24時間体制の訪問看護による週3回の健康管理・問題時の相談、以前からのかかりつけ医への受診の援助や情報提供を行っている。協力医の定期的な往診や、内科だけでなく歯科・整形外科等の受診も行っている。</p> <p>(外部評価) 入居間もない利用者については、暮らしの様子を見ながら薬の必要性等について、医師と相談して対応している。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 医療連携している訪問看護ステーションとは連絡・相談を常に密に取りながら、入居者の健康管理に取り組んでいる。色々なアドバイスを頂く事でスタッフも安心してケアにあたっている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入院時は市指導の地域生活連携シートを利用して病院へ情報を提供し、場合によっては病院へ行き担当者と話しをしたり円滑に情報の交流を行うように努めている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 看取りを望まれる方の為、カンファレンスや医療機関との話し合いや運営推進会議でも意見を求め時間をかけて検討を行い、看取りの取り組みが確立した。研修や勉強を通じてなお一層のスタッフのスキルアップを行っている。</p> <p>(外部評価) 重度の利用者には、小まめに声をかけることや居間で過ごす時間を作る等して、普段と変わらないような暮らしができるよう支援している。事業所では、看取り支援について、家族の気持ちを優先した支援に取り組んでおり、調査訪問時には、家族から「自然に」と希望がある利用者について、時間をかけて食事介助をしていた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<p>(自己評価)</p> <p>急変時の手順・連絡網など分かりやすい場所に掲示し、常に念頭に置くようにしている。</p>	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<p>(自己評価)</p> <p>消防署の参加のもと指導を受け、推進会議の委員の皆様にも参加頂き避難訓練等は定期的実施している。今後は地震への対策が課題だと思っている。備蓄は携帯ガスを含め2日分を確保するように努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>一年のうちでは、消防署の協力を得た日中の火災を想定した避難訓練と、自主訓練を行っている。警備会社と契約しており、火災時にも駆けつけてくれるようになっている。現在は、3日分の備蓄をしており、種類を増やしているところである。</p>	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<p>(自己評価)</p> <p>何気ない日常会話の中にも入居者の自尊心を傷付けてしまうことを意識し注意を払うようにしている。また個人情報の保護に関しても徹底するようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所の特長として「臨機応変に対応できる」ことを挙げており、利用者個々の状態に合わせた対応に努めている。利用者によって、編み物や塗り絵、貼り絵等行う機会を作ったり、更衣時には「これとこれどっちにする？」等、選ぶ場面を作っている。車いすの背もたれ等に、ヘアブラシ等を入れておき、気が付いた時に髪を梳かせるよう支援している。利用者がトイレ使用时、戸を閉め忘れていたが、職員は一言声を掛けて閉めていた。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<p>(自己評価)</p> <p>入居者ご本人がどうしたいのかをまず伺い、出来るだけ希望に添えるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	入居者一人一人のペースを大切に、穏やかな生活が送れるように支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)	入居者の好みやこれまでの生活の延長として個々に応じて身だしなみや、おしゃれが出来るように心がけている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	玉ねぎやジャガイモの皮むきや料理の盛り付け等、出来ることをして頂いている。テーブルを拭いたり下膳などの後かたづけも出来る方は一緒にしてくれている。
			(外部評価)	
				以前は事業所で食事を作っていたが、現在は、隣接する法人サービス付高齢者住宅の厨房から届くようになっている。変更した際には、運営推進会議で報告をした。ごはんや味噌汁、又、夕食は一品事業所で作り追加している。お寿司の好きな方には、誕生日に寿司を買って来て祝った。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	栄養バランスのとれた食事を提供出来るように心がけている。入浴後の水分補給や夜間自室にお茶をおいたり水分が出来る様に支援している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)	ご自分で出来る方は毎食後声掛けを行い介助が必要な方はスタッフが介助している。定期的な歯科衛生士が訪問口腔ケアを行い、スタッフにも指導してもらっている。必要時は医師の往診してもらっている。嚥下機能が低下しないように口腔ケアに気を付け、嚥下体操に歌を5曲歌うのを毎日昼食時に行っている。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄表を活用し、時間誘導や入居者のタイミングに合わせて支援するように心がけている。気持ち良く排泄出来る様可能な限りトイレでの排泄を支援している。 (外部評価) 排泄チェック表を付けて声掛け等して支援している。又、利用者がソワソワした様子が見られた時等には、そっと誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 繊維質のある食べ物を摂って頂いたり、水分補給に心掛けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 2～3日間隔で入浴し、入浴出来ない方はシャワー浴をしている。気持ちよく入浴して頂けるように声掛けの工夫や、一人一人に応じたタイミングを計る等工夫している。 (外部評価) 入浴は午後からとなっており、利用者個々に週2回程度入浴を支援している。隣接する法人サービス付高齢者住宅の浴室にあるリフト浴を利用して支援するケースもある。嫌がる方には、時間を置いたり、シャワー浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その時に応じて、一人一人の気持ちを尊重し、安心して休息や睡眠を取れるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)  薬剤情報をファイルしてスタッフが周知するようにしている。服薬の仕方も一人一人に応じた支援をするようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)  音楽・手作業等生活に張り合いや喜びを感じていただけるように一人一人に応じた楽しみや役割を探し行えるように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)  その日の希望にはなかなか答えられない所もあるが、出来るだけ散歩や天気の良い日の日向ぼっこ、戸外へ出かけられるように支援し、またご家族の方にも協力していただいている。  (外部評価)  散歩に行っている。重度の方は、気候や天候を見て庭に出て過ごす時間を作っている。野菜の世話ができるように庭に菜園スペースを作ったり、プランターで育てたりしており、外に出るきっかけにもなっている。。隣接する法人サービス付高齢者住宅の行事に参加したり、時には外でおやつを楽しんだりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)  金銭管理は全員が難しいので、お金の事を気にする方にはその都度説明し理解して頂けるように努めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)  入居者の希望に応じその都度対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	(自己評価)	
			<p>車椅子での生活に十分な広さの確保が出来るように工夫している。リビングの窓からは外の景色が良く見え四季を感じることが出来る。又季節を感じていただけるように壁画の作成を入居者と一緒に行っている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>陽が当たる場所に椅子を移動して、ひなたぼっこしたりしている。食前には、みなでラジオ体操や口腔体操を行っている。車いすの利用者は、昼食後にはテレビの見やすい位置に移動していた。調査訪問時には、3月のお雛祭りの貼り絵作品を作っていた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	(自己評価)	
			<p>座席の工夫やその方の状況に応じた誘導を心掛けている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>使い慣れた仏殿やタンス、テレビ等をお持ち頂き、入居者の好みのアレンジをして頂き快適に過ごせるように心がけている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	(自己評価)	
			<p>使い慣れた仏殿やタンス、テレビ等をお持ち頂き、入居者の好みのアレンジをして頂き快適に過ごせるように心がけている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>ベッド、カーテンは備え付けとなっている。不在の時には換気をしている。誕生日の色紙を飾っていた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	(自己評価)	
			<p>トイレや浴室等入居者が混乱しないように表示したり、フロアも安全に生活出来るようにしている。</p>	